

京都御苑を歩く

日本に3つある国民公園の1つ、京都御苑。今回はその魅力を紹介します。

～御苑の歴史と今～

もともと御苑とその周辺は公家町だった。しかし公家の多くが明治天皇と共に東京へ移動したため、空き家が増え、荒廃してしまった。その町の様子を嘆いた天皇の命を受け、京都府が御所保存のために空き家を整理し、御苑は現在の姿となった。同時に区画整理も行われ、現在の位置に門が移された。

かんいんのみやでいあと しゅうすいてい
今は閑院宮邸跡や拾翠亭を除き、ほとんどの建物がわずかにその痕跡をとどめるのみとなっている。御所は事前に申込みをするか、春と秋の一般公開（例年5日間ほど）の時期に訪れれば、外観を見学できる。毎年5月15日・10月22日には、葵祭・時代祭の行列の出発場所としてにぎわっている。

～由緒ある建物～

閑院宮邸跡

——過去と現在が
交差する空間——

京都御苑の南西にある建物。火事で1度焼失したため、現在の建物は再建後のものだ。明治期以降には宮内省京都支庁など、さまざまな目的で使われていた。月曜日以外は参観可能で、苑内の写真や貴重な展示品、庭園などを見学できる。1日3回、職員の方がガイドをしている。



▲いろいろな展示品が並ぶ室内。貴重な品も多い



▲庭から見た外観。広々としていて開放感がある

拾翠亭

——昔の暮らしに
思いを馳せて——

京都御苑の南側にある建物で、数寄屋風書院造でありながら、寝殿造の趣がある。木々と池に囲まれた建物には独特の雰囲気が漂い、江戸後期当時の貴族の暮らしの一端が垣間見える。現在では、茶会や句会の集会所としても親しまれている。3～12月の毎週金・土曜日に参観が可能。



▲シンプルな屋内の雰囲気は、やはり外とは違う



▲池の側から見た外観。ゆっくりとした時が流れる

～国民公園として～

現在でも市民の活動の場として活躍している御苑。大きなグラウンド（富小路広場）がやや南東よりに位置している。また、各所に休憩所が設置されており、疲れたときには一息つくことができる。

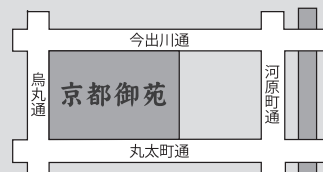


▲サークルの活動にも使われる。利用には手続きが必要



▲御苑西側の最も大きな休憩所。お土産も売っている

交通案内



地下鉄烏丸線「丸太町駅」「今出川駅」
市バス 「烏丸丸太町」「烏丸今出川」
下車すぐ